

平成 25 年 3 月 12 日

**UNGC、UN Women 共催  
第 5 回女性のエンパワーメント原則 (WEPs) 年次会合  
参加報告**

2013 年 3 月 5 日～6 日に、職場、市場、地域における男女共同参画及び女性のエンパワーメントの推進を目指し、第 5 回 WEPs 年次会合及び第 2 回 WEPs リーダーズグループ会合が開催された。

## 1 テーマ

インクルージョン：変化への挑戦

## 2 日程

2013 年 3 月 5 日 (火) ～6 日 (水)

## 3 場所

国連スイス政府代表部会議室、ロックフェラー・プラザ会議室等 (米国ニューヨーク市)

## 4 参加者

潘基文国連事務総長、ミチエル・バチエレ UN Women 事務局長、ゲオルグ・ケル UNGC 所長のほか、国連機関、民間企業 CEO 及び役員、各国政府、国際 NGO、研究機関から参加 (招待者に限定、約 300 人)

※ 日本から、岩田喜美枝氏 (資生堂)、石川康晴氏、熊谷健氏 (以上、クロスカンパニー)、亀井浩子氏 (大阪ガス)、橋本ヒロ子第 57 回 CSW 日本代表、別府審議官、大西専門職 (以上、内閣府) が参加

## 5 概要

### (1) 第 2 回 WEPs リーダーシップグループ (LG) 会合

- 年次会合に先立ち、UNGC 財団会議室において、WEPs LG 会合 (2011 年に設置。WEPs を推進する核となる世界中の企業の CEO 及び役員、NGO、研究機関、国連機関等 28 人のメンバーで構成。日本から、岩田喜美枝氏が参加。) が開催された。
- 今年度の活動報告として、事務局より、署名企業数の増加 (2013 年 2 月末現在で 542 社)、国連「リオ+20」会合における WEPs をテーマとした分科会の開催、WEPs に特化したウェブサイトの立ち上げ・運用、WEPs リーダーシップ大賞の創設、日本を始め各国における WEPs を推進するコアリションの設置及びその活動等が報告された。また、岩田氏より、今年度のチーム活動の概要が報告された。
- 次年度の活動戦略等について、事務局より、署名企業数の拡大、署名企業による WEPs 実施への支援、署名企業の企業情報や取組事例に関するデータベースの構築、SNS による広報の展開、各国の GC ローカルネットワークや UN Women 事務所等の活動の奨励、第 2 回 WEPs リーダーシップ大賞の実施、国連「ポスト 2015」会議に向けた協議プロセスへの参画等が報告され、メンバーとの意見交換が行われた。

## (2) 第5回 WEPs 年次会合

### 〔第1日目〕

- 国連スイス政府代表部会議室において、パネルディスカッションが開催された。スイス政府の女性のエンパワーメントに関する取組、オーストラリアの2012年に改正されたジェンダー平等法に基づく報告制度、バングラデシュのマイクロクレジットを用いた女性のエンパワーメントの取組、トルコのIT企業による女性に対する暴力撤廃への取組、国連のWEPsの取組の発展について、各パネリストから報告された。

### 〔第2日目〕

- ミチエル・バチレ UN Women 事務局長が開会挨拶を行い、3月8日の国際女性の日を記念して、女性のエンパワーメントだけではなく民主主義や健全で生産的な社会を実現するためにも企業が多様性とインクルージョンを推進する重要性を再確認するとともに、第57回CSWの主要テーマである女性に対する暴力撤廃に関連して、インド、ブラジル、ケニア、スペイン、米国等各国企業による取組を紹介した。また、若者を巻き込む取組への期待が示された。

ゲオルグ・ケル UNGC 所長は、WEPsに取り組むことによって、企業は、社内だけではなくバリューチェーンを通じた変化をもたらすリーダーシップと革新的なプログラムが可能になると指摘した。

また、基調報告として、エリザベス・ブロドリック氏（オーストラリア人権委員会性差別コミッショナー）からオーストラリア政府が行っている「『男性のチャンピオン』制度」について、韓国のキム・ソンジュ氏（ソンジュ・グループCEO）から起業から現在までのビジネス経験に基づいた女性のエンパワーメントの重要性について報告された。

さらに、クリスティン・ヘトレ UN Women 戦略的パートナーシップ部長から、各国が行っているWEPsを用いた取組について、セルビア、ブラジル、スイスとともに、日本のチーム活動が紹介された。

- 特別ゲストとして、バレリー・ジャレット米国オバマ大統領上級顧問兼ホワイトハウス女性と少女評議会議長が来場し、ケル UNGC 所長と対談を行った。ジャレット議長は、女性のエンパワーメントは多様性そのものであるというシグナルを発信し続けることが重要であり、米国政府としても好事例の共有等に取り組んでいくと強調した。
- 会合では、3つのセッションが開催された。各セッションでは、①ジェンダーや年齢に関わらず、特にミレニアムス（2000年以降に就職した1977年以降生まれの若者）が活躍できるような多様性を推進する企業及びこれを促進するビジネススクールにおける取組（PRME）、②サプライヤーにおける多様性とインクルージョンの推進及びテクノロジーによるイノベーションの重要性、③より包摂的で多様性のあるビジネスに変化させるためのイノベーションを実現する方法等を中心に、企業、NGO、教育機関の好事例が報告された。

セッション1において、岩田氏が資生堂の取組について報告した。

- 潘基文国連事務総長とフロアとのトークセッション及び閉会挨拶が行われた。潘事務総長は、女性のエンパワーメントの取組は事務総長としての最優先事項であり、各国政府で大統領や総理大臣と会談する際には必ず閣僚と議会における女性の割合をお聞きしてさらに増やす取組を行うよう提案していることといったエピソードを紹介し、

企業はジェンダー・バイアスの撤廃及びインクルージョンや多様性に関するサプライチェーンの取組の促進等を実行的に行っており、WEPsを通じて国連と企業がパートナーとなっていること、500人以上のCEOがWEPsを支持する活動を通じて女性のエンパワーメントは正しいということだけではなく経済的に利点があることを証明していること、日本等世界中の国々でWEPsに取り組む協力体制が構築されていること等について言及して、より一層WEPsに取り組むことを呼びかけた。

### (3) 第1回WEPsリーダーシップ大賞

- 2012年末に募集要項が公開され、世界中から15社(人)がノミネートした。WEPsLGメンバーで構成される審査委員会による審査を経て、受賞者が決定された。大賞は5社(人)が受賞した。
  - ① 変化を実現した評価指標賞—ニュージーランド銀行(本社:ニュージーランド。女性を中間管理職から役員レベルに昇格させる取組について)
  - ② 行動を実現したビジネス事例賞—Taj社(本社:フランス。ジェンダー多様性を広げる企業方針の実施と企業文化の変革について)
  - ③ 地域参画賞—ディーンズ・ビーンズ・オーガニックコーヒー社(本社:米国。コーヒー豆生産地における、生産者(女性)参加型のエンパワーメントの取組について)
  - ④ エンパワーメントを実現した企業文化変革賞—MASホールディングス社(本社:スリランカ。スリランカや南アジア地域における服飾産業の女性従業員のエンパワーメント・プログラムの開発について)
  - ⑤ 7原則総合賞—イタイプ水力公社(本社:ブラジル。ブラジルとパラグアイにおける男女共同参画や貧困女性に関する同社の「ジェンダー平等ガイドライン」の開発について)
- 優秀賞として、資生堂(本社:日本)、HCLテクノロジー社(本社:インド)、ステクス織物社(本社:トルコ)の3社(人)が表彰された。
- 来年度の第2回大賞に向けて、2013年夏に募集要項が公表されることが示された。

### (4) その他

- 国連側より、WEPsチーム及びチームメンバーの活動に関する敬意と感謝の意が表され、一層の情報共有の要請があった。「問診票」の取組が高く評価され、英語版(日英対照版)を国連WEPs事務局のウェブサイトへ掲載し、広く共有・発信したいとの依頼があった。会場に参加していた米国政府関係者からも同様の相談があった。また、平成24年11月に全国3か所で開催された公開研究会についても強い関心が示され、成果を広く共有したいとの意向が示された。
- また、国連側より、問診票の送付や、GC-JNや法政大学GC研究センターがそれぞれ日本のWEPs署名企業についてのアンケート等をすでに実施したりこれから予定していたりするようであるが、署名企業にとっては回答を求めるメールが複数届くことになることが気になっており、各々の取組を協働のプロジェクトにしてはどうか、との助言があった。その他、チーム活動について、国連WEPs事務局として必要な協力を行う用意があるとの意向が示された。

以上